

PRAEVIDENTIA DAILY (11月18日)

昨日までの世界：ドル/円はV字型回復、ユーロは Draghi 総裁発言で下落

昨日は、ドル/円のV字型回復とユーロ安が顕著だった。ドル/円は、本邦3Q GDP速報値が前期比年率-1.6%と市場予想のプラスに反して予想外のマイナス成長となったことから、発表直後は円売りとなり、ドル/円は一時117.04円へ続伸した。もっとも、その後は、株価への悪影響が嫌気され、実際本邦株価が大きく下落すると、これまで同様ドル/円も本邦株価との連動性が意識され、ドル/円はつれ安となり、一時115.44円へ下落した。しかし、ドル安値では押し目買い意欲が強かったとみられるほか、米株価や米中長期債利回りの持ち直しもあって、ドル/円は116円台後半へV字型回復を示し、ほぼ本邦GDP発表直前の水準を回復した。予想外の景気悪化だったが、これは日銀の追加緩和姿勢を強めこそすれ弱めることはない、これまでのドル/円を押し上げてきた日米金融政策スタンスの違いは更に強まることになる。ドル/円の上昇基調は続きそうだ。

他方、ユーロは、Draghi・ECB総裁が欧州議会での証言で、インフレが長期間、過度に低い水準に留まればECBは行動する用意がある、ユーロを守るために必要なあらゆる措置を講じる、スタッフに追加措置の策定を支持しており、それには国債買入も含まれると述べると、内容的には目新しくないがユーロが下落、ユーロ/ドルは1.2443ドルへ下落した。またMersch・ECB理事が非伝統的措置について、理論的には国債、金、株式、ETFなどの購入が含まれるとしたこともユーロ安材料となったようだ。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油Brent
ドル/円	+0.3	+0.00	+0.00	-0.00	+0.02	+0.02	-0.01	+0.1	-3.0	-0.5
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	-0.6	+0.01	+0.01	+0.00	-0.01	+0.01	+0.02	+0.7	+0.1	-0.04
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価	
ポンド/ドル	-0.2	+0.01	+0.01	+0.00	-0.02	+0.00	+0.02	+0.3	+0.1	
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB
豪ドル/米ドル	-0.4	-0.03	-0.03	+0.00	-0.08	-0.06	+0.02	+0.1	-0.2	+0.2
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB
NZドル/米ドル	+0.1	+0.00	+0.00	+0.00	-0.05	-0.03	+0.02	+0.1	-0.2	+0.2
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB
米ドル/加ドル	+0.2	+0.00	+0.00	-0.00	+0.03	+0.02	-0.01	+0.1	-0.4	+0.2

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。
(出所) トムソン・ロイター、プレビデンティア・ストラテジー

きょうの高慢な偏見：ドル/円は上昇軌道に回帰へ

きょうの注目通貨：USD/JPY↑、GBP↑

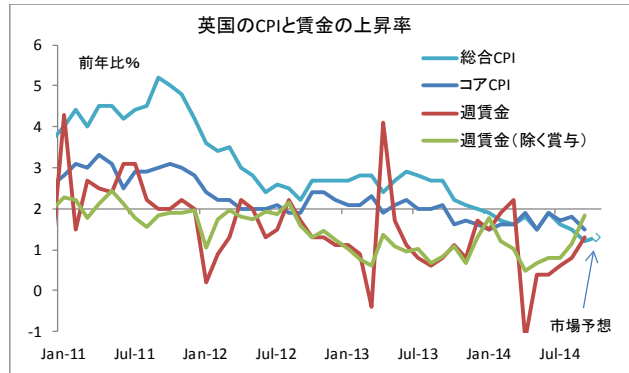
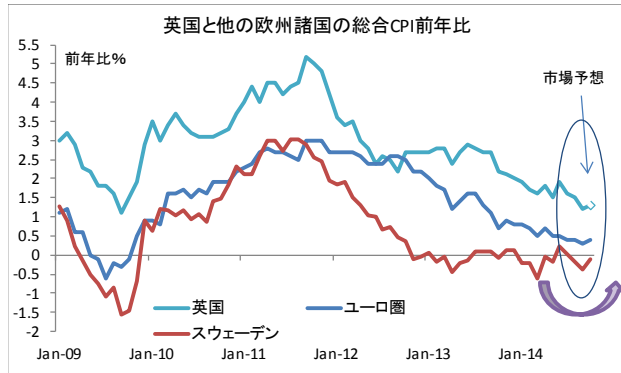
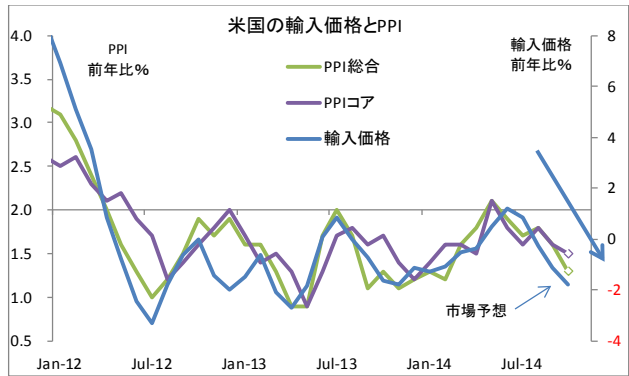
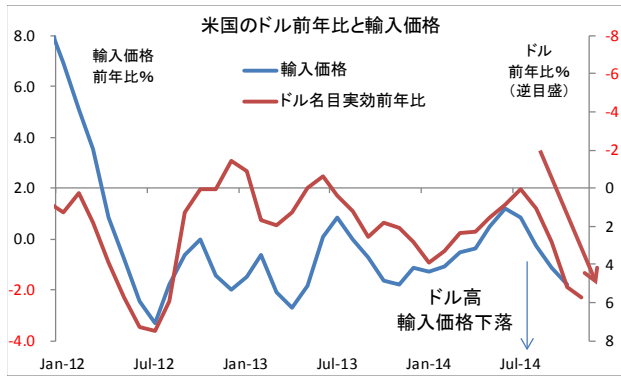
きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
豪 RBA 議事要旨	9:30			
日・経済財政動向等についての点検会合	10:00			
Stevens・RBA 総裁発言	17:25			
英 10月 CPI 前年比	18:30	+1.2%	+1.3%	
独 11月 ZEW 期待指数	19:00	-3.6	+0.5	
米 10月コアPPI 前年比	22:30	+1.6%	+1.5%	
米 11月 NAHB 住宅市場指数	0:00	54	55	
安倍首相記者会見	未定			消費増税、衆院解散関連

(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

本日は、ドル/円が本邦3Q GDPの予想外のマイナス成長となった後に株安につれて下落したものの、欧米時間に下落分をほぼ全て取り戻したことから、底堅さが再確認されたため、再び上昇基調に戻り117円台を試す展開となりそうだ。本日は安倍首相が来年10月に予定されていた追加消費増税を1年半延期、そして12月14日投開票で総選挙を行う意向を表明する見込みだ。通常は選挙実施は目先の政治的空白や結果に対する不透明感から通貨安要因となるが、現在の日本では、アベノミクス継続に対する不透明感がむしろ株安・円高に繋がりがえる状況だ。とは言え、首相は与党勝利の公算が高くなければわざわざ選挙実施に踏み切らないはずで、その面では少なくとも与党が劣勢となるような状況にならない限りアベノミクス継続に悪材料ではないだろう。

ドル/上昇トレンド再開に対するリスク要因は、本邦株価が続落する場合の連れ安リスクおよび、米国のインフレ率低下リスクだ。米国のインフレ率を巡っては、最終的に重視されているコアPCEデフレーター前年比が横ばい傾向であるためインフレ/デフレいずれのリスクも高まっていないが、これまでのドル高や原油安もあって、既発表の輸入物価が大きく下落してきていることから、本日発表のコアPPIもどちらかというところ下振れリスクがある（下図を参照）。

ポンドは対ドルで下落が続いているが、本日発表の英CPIは10月分が既発表のユーロ圏やスウェーデンと同様に前年比で持ち直しが予想されており（下図を参照）、ディスインフレリスク・低金利長期化からくるポンド安には歯止めがかかる公算だ。ユーロ圏でも、先週の3Q GDPの持ち直しに続き、ドイツZEW期待指数も10カ月連続悪化の後、小幅持ち直しが予想されていることから、ユーロ/ドル反発に繋がる可能性がある。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。
 当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。
 当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
 金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第2733号
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641